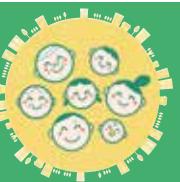


**すべての人にやさしいまち
練馬区をめざして**
～今年も引き続き全力で取り組みます～



【高齢者が地域で活躍できる社会の実現を!】

- ・高齢者、地域住民が、地域包括システムの中で積極的に福祉活動に参加できる仕組みをつくります。

【障害者(児)福祉の充実を!】

- ・中途障害者・重度心身障害児の支援体制を確立します。
→心身障害者福祉センター(中村橋)における高次脳機能障害を持つ方への機能訓練および生活訓練プログラムや、重度心身障害児とその家族の方への支援事業を充実させます。

【若年性認知症者とその家族に対する支援を!】

- ・65歳未満で発症する若年性認知症の人の就労継続と社会参加を促す支援体制を確立します。
→若年性認知症の方ご本人とご家族の生活実態に関する調査を提案します。

【区内の人工透析医療の充実を!】

- ・現在区内で生活している約1300名の透析患者が、今後も区内で適切に透析医療を受けられる体制を実現します。
- ・災害時における透析医療確保に関する行動指針を策定します。
- ・災害時には、避難拠点で透析医療情報を提示するため訓練等での情報伝達の仕組みの周知徹底を図ります。





新年を迎えて

練馬区議会議員 第五十九代議長 副幹事長

自民党



門口かずお

議会運営委員会 委員
常任委員会 区民生活委員会 副委員長
特別委員会 総合・災害対策等特別委員会 委員
各種委員会 民生委員推薦会、土地開発公社評議員会

ご相談は… 門口かずお 事務所
〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8
Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>

カウンターの母と子に 母をおもう

ある寿司屋を訪ねたときのことだ。「きんめだいを、さび抜きでお願いします」という子どもの声が聞こえた。見れば、3、4歳の男の子が、カウンターにちょこんと陣取っている。「はい、金目鰯、さび抜きだよ」と職人が声をかけて皿を置くと、「元気に『いただきます』と言つて食べ始めた。そして、母の顔を見てにっこり笑うと、母親が、おいしいね、よかつたねと声をかける。母も子も、とても穏やかな顔をしている。その席はとても温かく、やわらかい空氣に満ちていた。ふいに、自分の母をおもつた。

私が幼いころ、家業の自動車整備場には若い住み込みの整備工があり、母はいつも母替わりに世話を焼いていた。人が訪ねてくることも多い家で、母が、その人たちと話し込んでいる姿を覚えている。まだ私が議員になる前に亡くなった母の葬儀に、家族も知らない人が幾人も参列し、母に本当に世話になつたとお礼を言うのを聞いて初めて、母が、訪ねてきた人を手ぶらで帰すことがなかつたことや、時には、楽ではない自分ながら、いくばくかの都合をつけたりしていたことが分かつた。後に議員になつたとき、母が、母の人柄で培つてくれた、人とのつながりが、私が、政治の世界に出ることを後押ししてくれたのだと、心底おもつた。そしてそんな母に育てられたからこそ、今の自分の、人としての、そしてまた政治家としての「私の流儀」があるのだと思つた。

親のすることを間近で見たり、ともに行事に参加したり、食事をしたり…そんな経験を積むことで、子はだんだん大人になつていく。そしていつか必ず、親から離れ、自分を持つときがくる。それが、子育てというものだ。母と子、父と子、親と子が時間を共有できる期間は、実はとても短い。その中で、あの寿司屋の母と子のような、温かく心に残る時間を、どれくらい持つことができるか。それが、子の人生の豊かさにつながるのだと、おもつ。

最近、子育て支援に関する議論の中で、育児休暇の取得の促進が注目されているが、今の日本社会においては、経済的な側面でも、職場状況の面でも、課題が多い。親と子が、共に過ごせる時間を、無理なく取れるような政策こそ、今、本当に求められる、子どものための、子どもの立場に立つた「子育て支援」であろう。

ピリリと冷たい冬の朝の空氣に、台所の母の背中を、おもいだす。

